

令和3年第4回(9月)掛川市議会定例会  
一般質問発言順序

- |    |     |         |
|----|-----|---------|
| 1  | 10番 | 富田まゆみ 君 |
| 2  | 2番  | 安田 彰 君  |
| 3  | 4番  | 石川紀子 君  |
| 4  | 13番 | 嶺岡慎悟 君  |
| 5  | 5番  | 鷺山記世 君  |
| 6  | 7番  | 大井 正 君  |
| 7  | 15番 | 鈴木久裕 君  |
| 8  | 11番 | 勝川志保子 君 |
| 9  | 12番 | 松浦昌巳 君  |
| 10 | 14番 | 藤澤恭子 君  |
| 11 | 18番 | 窪野愛子 君  |

令和3年第4回(9月)掛川市議会定例会  
一般質問発言順序(予定)

---

9/14 AM 10番 富田まゆみ 君

2番 安田 彰 君

---

PM 4番 石川紀子 君

13番 嶺岡慎悟 君

5番 鷺山記世 君

---

9/15 AM 7番 大井 正 君

15番 鈴木久裕 君

---

PM 11番 勝川志保子 君

12番 松浦昌巳 君

14番 藤澤恭子 君

---

9/16 AM 18番 窪野愛子 君

---

## 一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	10	氏名	富田 まゆみ	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 <input type="checkbox"/> 一括 )
------	----	----	--------	---

- 1 感染の拡大防止を徹底し日常生活を確かなものにするための対策について  
(答弁：市長、教育長)

コロナの感染拡大を防止するとともに、感染の影響を受けている市民生活への対策は確実に実施しなければならない。とりわけ、ワクチン接種の推進と低年齢化が進む感染拡大の防止は急務であり、日常生活も守らなければならないことから、次の点について伺う。

- (1) ワクチン接種に関わる人的不足が生ずることのないように、しっかりとした対策を講ずるべきと考えるが見解を伺う
- (2) 全国の自治体の中では、自宅療養および入院調整中の感染者に対し、パルスオキシメーターの貸し出しや配食、買い物代行などの支援が始まっている。掛川市は今後、自宅療養者に対しどのような支援をしていくのか伺う
- (3) コロナ感染者の増加に伴い、市内では8月末現在、保育所等を利用する保護者に対し家庭内保育のお願いをしている。その際、有給休暇を使って対応している保護者、そうした休暇制度のない雇用形態の方々の切実な思いに、市としてどのように対応するのか考えを伺う。また、有給休暇という形ではなく、『特別有給休暇』などの対応をお願いするよう、市から企業に対して働きかけができないか、伺う
- (4) 臨時休校した場合の児童生徒の学習への影響を最小限に抑え、効果を上げる教育をどのように考え対応するのか。また、学童保育などの対応をどのように考えているか伺う

- 2 補正予算事業の今年度分の進捗と今後の市民への支援について (答弁：市長)

新型コロナウイルス感染症拡大により、本県も緊急事態宣言が発出され、さらなる感染の拡大、医療体制のひっ迫、休業や時短要請に伴う経済活動や市民生活への影響が懸念される。そこで、次の点について伺う。

- (1) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金(国)および、感染症対策地域振興臨時交付金(県)を活用した事業が6月補正で予算に計上された。県の交付金は、9月末までに完了する事業が交付対象となっていることから、現在の事業計画の進捗状況および、現時点での事業実績を伺う
- (2) 現状のコロナ感染拡大の影響を踏まえ、事業者支援を行うための臨時交付金の交付限度額が8月20日付けで国から示された。これは経済対策として重要な観点である。加えて、コロナ禍で起こる災害に対し、感染拡大を防止し市民の

安全安心を守るための施設整備等も重要であると考えている。空調や排気設備充実などを目的とした公共施設や自治活動施設の整備等、ハード面での支援も必要である。今後、さらなる国からの交付金支援があった場合、こうした事業を計画に盛り込む考えがないか伺う

### 3 学校給食センターについて

(答弁：教育長)

老朽化の進む学校給食センターは、改修や統合により安心安全な給食の提供を行っているが、室内温度や湿度など、調理員の健康管理を維持増進する職場環境改善は難しく、様々な改善を試みている。市内の学校給食センターは、市学校給食基本計画によると将来的には一本化することとなっているため、公共施設マネジメントの観点から、このような丘に過度な投資はできないと考えられる。

学校給食が児童生徒の心身の健全な発達に資するためには、施設設備、食材の検収・保管、配送に加え、調理の担い手である調理員の役割は大きく、安全安心で働きやすい職場環境の実現は大切な要素である。このことから、以下の点について伺う。

- (1) 学校給食センターの一本化に向けたスケジュールと整備方針について伺う
- (2) 委託業者により実施されている調理場の運営における業務改善提案はどのように行われ、市当局はどのようにその改善提案を吸い上げ、実現に繋げているのか、伺う。具体的な実現事例があれば、合わせて伺う
- (3) 調理員の作業効率や作業の安全性、健康管理に影響を及ぼす備品や機器の更新は、早期に行うべき課題であると考えているが、いかがか
- (4) 老朽化したこのような丘は、2年前に外気処理空調機の大規模改修で室内温度の上昇を防ぐ工事を行ったが、作業環境改善の効果が弱いため、コンサルタントに相談するなど改善策を模索している。これ以上の大規模な改修は困難なため、スポットクーラーの設置等、更なる働きやすい環境整備が必要と考えるがいかがか

## 一般質問通告要旨

議席番号	2	氏名	安田 彰	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	---	----	------	---

### 1 小学校における安全で安心な学習環境について (答弁：教育長)

小学校においては授業時間数の増加、それに伴う教職員の会議時間の確保等のため、子どもにとって時間的なゆとりが減ってきている。このような状況の中で、子どもにとって昼休みはリラックスタイムだったり、友達との交流を楽しんだりする貴重な時間になっている。しかし、昼休みは学級担任にとっても休憩時間であるため、子どもの活動を把握することが難しい実態がある。そこで、本市の小学校における昼休みについて、以下の通り伺う。

- (1) 小学校における学校事故(令和2年度、スポーツ振興センターに係る)の発生状況について、授業中、休憩時間、昼休み等場面毎の発生数について伺う
- (2) 昼休みの児童の安全管理について、どのように行っているか伺う
- (3) 掛川市では小中学校合わせて47名の学校サポーターを採用し、配置している。このサポーターの勤務時間を1時間増やして5時間勤務にすることで、子どもを見る目が増え、昼休みの安全性が高まると思われる。学校サポーターの勤務時間1時間増の実現は可能か伺う
- (4) 安全安心な昼休みにするために現状を改善することが必要だと思うが、そのための方策について伺う

### 2 小中学生の通学の安全性向上について (答弁：市長、教育長)

6月28日千葉県八街市で小学生の交通死亡事故が発生した。事故現場は幅員6.9mの市道で歩道なし、速度規制の標識もなかったということだが、このような通学路は本市にも多数存在している。つまり、いつ交通事故が起きても不思議ではない状況にある。本市の通学の安全性を向上させる取り組みについて伺う。

- (1) 通学路の危険箇所等はどのように把握し、どのように改善しているか伺う
- (2) 前回の点検(令和元年度)で確認した危険箇所の改善率は、何%か伺う
- (3) 前回の改善の結果について、学校及び保護者・地域にどのようにフィードバックしたのか伺う
- (4) 通学の安全性向上については、ハード面の改善だけでなく、関係者(学校・保護者・地域・行政・警察等)が常に高い意識を持って取り組んでいくことが大切だと思うが、見解を伺う
- (5) 市全体の通学の安全性を更に高めていくためには、各地区で行っている取り組みについての情報交換が必要だと思うが、見解を伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	4	氏名	石川紀子	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	---	----	------	---

### 1 人優先の交通安全対策について (答弁：市長)

利便性の高い車は、私たちの生活には欠かせないものである。しかし、高齢社会においては当然のごとく高齢者の人口が多く、また車道が整備されれば交通量が多くなり交通事故の危険性も高くなる。

そこで、歩行者と車が共存し、安心安全な環境を構築するためには、交通弱者の視点に立って、バリアフリーの幅広い歩道を整備し、「第10次掛川市交通安全計画」に謳われている「人優先」の交通安全対策が必要であると考えます。そこで、以下について伺う。

- (1) これまでの車中心の道路整備から、交通弱者の視点を重視した歩道整備を優先する考えはないか見解を伺う
- (2) 依然として、マウントアップ形式の歩道が残っている。計画的にバリアフリー化を進め、歩行者に安全なセミフラット形式に変えていくべきと思うが見解を伺う
- (3) 車道を走る自転車の安全を確保するための整備が必要だと考えるが見解を伺う

※ マウントアップ形式とは、高さ10cm～15cmの歩道。歩道面を縁石と同じ高さで車道面より高くなる構造。

セミフラット形式とは、縁石を挟んで歩道面が車道面より5cm高くなる構造。

### 2 津波による防災対策について (答弁：市長)

最大クラスである「レベル2」の津波を想定して、被害の最小化を目指した防潮堤の整備が進められている。また、津波避難タワー等の整備も進められ、ハード面における対策が行われている。しかし、命を守るためには自助の意識を高め、共助し合える地域づくりなど、ソフト対策も重要である。そこで、以下について伺う。

- (1) 津波ハザードマップを市民に周知し、いざというときに即座に行動できる取り組みが必要と考えるが見解を伺う。
- (2) 要援護者の避難に際し、情報伝達や避難支援などの体制が整備されているのか伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	13	氏名	嶺岡慎悟	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	----	----	------	---

### 1 観光施策について

(答弁：市長)

新型コロナウイルス感染症によって、最も打撃を受けているのは観光業である。いまだ出口が見えないコロナ禍であるが、多くの観光資源、宿泊施設、飲食店がある本市にとって、コロナ収束後には多くの観光客を招き入れ、経済を立て直していくことが大変重要である。そこで、以下の点について伺う。

- (1) 年内に、スマホ決済によるポイント還元やプレミアム商品券の発行などの消費喚起策の実施ができないか伺う
- (2) ブレジャー (※1) の概念は、ビジネス客が多い本市にとって親和性が非常に高い。本市も積極的に取り組んでいくべきと考えるが見解を伺う
- (3) かけがわ茶エンナーレ2020+1について、コロナ収束後の国、県の観光施策に合わせた取り組みをする考えがないか見解を伺う
- (4) 大河ドラマ「どうする家康」が放送される2023年には、徳川家康に関連が深い掛川三城に多くの観光客が見込まれる。史跡整備や特別展の開催等を進める考えがないか伺う

※1 ブレジャー：業務での出張先で、滞在を延長するなどして、業務の後に旅行(レジャー)も楽しむこと。

### 2 DXの推進について

(答弁：市長)

今月1日にデジタル庁が創設され、社会全体のデジタル・トランスフォーメーションの実現に向けて、デジタル社会の形成が一気に進んでいくこととなる。また、6月の市長所信表明では「人にやさしいデジタル化」を掲げ、手のひら市役所を目指した取り組み等を進めているところである。そこで、以下の点について伺う。

- (1) 行政手続きのオンライン申請の導入状況と今後の見通しを伺う
- (2) 自治体専用WEBフォーム作成ツールを導入する考えがないか伺う
- (3) 全公共施設への施設予約システムを導入する考えがないか伺う
- (4) LINE公式アカウントにおいて、道路損傷等通報システムを導入する考えがないか伺う
- (5) DXのシステム費を近隣市町と共同調達する考えがないか伺う
- (6) DX強化人材の募集では、最高情報統括責任者(CIO)の登用を考えているのか伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	5	氏名	鷲山記世	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	---	----	------	---

### 1 公共交通について

(答弁：市長)

令和3年4月末現在、掛川市の人口11万6,702人に対する高齢者率は65歳以上だと28%（3万2,459名）、75歳以上だと13%（1万5,566名）である。人口減少・少子高齢化のため様々な問題が出てくることが予想される。とりわけ、市民生活を支える公共交通については、近々の課題である。

そこで、以下を伺う。

- (1) 東山口や倉真などでは生活支援車が運行されているが、今後も持続可能な運行を確保するため、どのような対策があるか伺う
- (2) 家族やご近所の方に頼ることが難しい方、自力で最寄りのバス停まで歩いて行けない方など、すべての交通弱者が利用できるデマンド型乗合タクシーにすべきと考えるが見解を伺う
- (3) 例えば、「洋服を買う」、「外食をする」等、目的を定め、掛川市内の企業や飲食店等と協働した仕組みを構築し、外出頻度が少ない高齢者に対する外出支援が必要だと考えるが見解を伺う
- (4) 掛川市民の生活圏域は市内にとどまらない。自宅から近い隣接市町の病院やスーパーを利用されている市民もいるため、隣接市町との連携強化に向けた取り組みを伺う

### 2 浸水・冠水対策について

(答弁：市長)

令和元年10月12日に発生した台風19号では掛川市内で浸水被害が発生した。ここ数年毎年のように大雨特別警報が発令される。市民の生命と暮らしを守る考えのもと、以下を伺う。

- (1) 東部ふくしあ周辺も農地の宅地化が進み、たびたび浸水・冠水被害にあっている。現在、市の浸水対策事業で水路整備を行っているが、進捗状況を伺う



## 一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	7	氏名	大 井 正	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 <input type="checkbox"/> 一括 )
------	---	----	-------	---

### 1 コロナ感染から市民の命と健康を守る市政の在り方について (答弁：市長)

今回の第5波といわれるコロナ感染爆発は、新自由主義の名の下で医療・保険体制を弱体化させた挙句、昨年のGO TOキャンペーン、今年オリンピック・パラリンピックを強行した政府の責任が極めて大きく、人災といってもよい事態といえる。このような事態の中で市民の命と健康、暮らしを守る最後の砦は地方自治体、すなわち掛川市政であると考え。そこで、以下の点について伺う。

- (1) 感染者数の増大により感染源を追跡・特定できなくなっている今、ワクチン接種がされていない集団や家庭で感染を拡大させないためには、市中の感染者、とりわけ無症状感染者の発見・隔離・治療が必要且つ有効と考える。その為には、誰でも何時でも何度でも検査を受けられる体制が必要だが、現状はそうになっていない。何が障害となっているか考えを伺う
- (2) 自宅療養者に対する生活支援や診療等は、現在医療機関や県とどのように連携しているか。また今後どのようにしていくのか伺う
- (3) 医療施設と従事者に過度の負担をかけないためにも、宿泊療養施設の増設が必要と考えるが見解を伺う
- (4) 中小企業振興会議内でのアンケートなどを踏まえ、事業者への新たな支援策の考えがないか伺う
- (5) 新型コロナウイルス感染症対策本部の対応方針は、根拠と理由付けを明確にして提示すべきと考えるが見解を伺う

### 2 生活道路の安全対策について (答弁：市長、教育長)

地震を初めとする自然災害や交通車両に対し、歩行者の安全を確保することは行政の大きな責任である。平成30年の大阪府北部地震を契機に実施された道路沿線のブロック塀調査結果に基づく対策のほか、八街市での飲酒運転トラックによる学童轢殺事故を教訓に実施されつつある通学路の安全対策状況について伺う。

- (1) 道路沿いに構築されたブロック塀について、平成30年 国住指第1130号の通知によれば、所有者に対し安全点検の実施と危険個所の補修又は撤去の注意喚起をするよう求めている。当市の実施状況を伺う
- (2) 平成30年の調査では、生活道路沿線のブロック塀について全数が掌握されていないと思われる。現存するブロック塀の実態を正確に掌握すべきと考えるが、当局の見解を伺う

- (3) ブロック塀の所有者への通知・啓蒙, 調査, 対策の実施を加速させる方策について伺う
- (4) スピードを重視してブロック塀の改修工事を実施した場合、本年度予算では足りなくなる可能性があるが、その対策について伺う
- (5) 6月の千葉県八街市における痛ましい交通事故を契機に、通学路の安全対策について調査・検討が始まっていると承知している。現在の進捗状況と、今後のスケジュールについて伺う
- (6) 状況の掌握と対策の一元化のため、ブロック塀対策や通学路の安全対策を含めた生活道路の安全性向上を総括的に管理するセクションを設けるべきと考えるが、これについての見解を伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	15	氏名	鈴木久裕	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	----	----	------	---

### 1 消防団員の確保と活動の負担軽減について (答弁：市長)

消防団の活動には大きな信頼と期待が寄せられているところであるが、少なからぬ分団で団員の確保に苦慮しているのが実態と聞いている。そこで新入団員の勧誘時期を前に、今後の団員確保策について伺う。

また、消防団員の多くは20代後半から30歳代中頃までの若者であり、仕事や子育てなどと合わせ団員活動をすることは非常に負担の大きいことである。さらに、この大変さの伝聞が消防団員確保を困難にしている要因の一つにもなっていると思われる。団員確保のためにも、現役消防団員の負担軽減が急務ではないか、伺う。

- (1) 令和3年度は、定数803人に対して19人の欠員となっており、また団員の平均年齢もここ10年で約1歳上昇しているが、このことをどのように受け止め、要因等を分析しているか伺う
- (2) 団員確保について、市や消防本部、消防団本部では、どのような取り組みをしているのか伺う
- (3) 高齢化や少子化、人口減少により、今後さらに団員確保が大変になるのではと危惧するが、定数見直しや組織の再編成などについてどのように考えているか伺う
- (4) 地域防災の要として地域に密着した消防団という観点から、団員確保については地元の支援・協力が必要と思うが、本部では、現在どのような方法で自治区や地区に協力依頼等しているか、さらなる取り組みの意向を含め、伺う
- (5) 平成26年度から導入されている機能別消防団員制度について、現状の評価及び今後の方針について伺う
- (6) 消防操法や訓練礼式をやめた場合はどのような弊害があるのか、少なくとも団員の負担軽減のためにあり方を見直すことはできないか、伺う
- (7) 消防署との合同訓練をより実践的で知識や技術が効率よく習得できるように工夫することなどにより、訓練全体の負担軽減につなげられないか伺う。
- (8) 新人団員等がより少ない負担で効率的に基礎的な技術や知識を身につけてもらえるよう、消防本部や団本部の主催による基礎講習会などの実施は考えられないか伺う
- (9) ラップ隊員は、演奏専門として本部で別募集する、あるいは思い切って隊はやめて行事では録音再生等に切り替えていくなど、負担軽減の方法は考えられないか伺う
- (10) 消防団活動全般について改めて見直し、本質は保ちつつも、機能別消防団員と同程度とするくらいまで、団員の負担軽減を考えることはできないか伺う

(11) 自動車運転免許制度の改正により、消防団車両を運転することができない団員がいる。運転できない団員が全額公費で資格取得できるようにするべきと思うがいかがか伺う

## 2 健康長寿推進と敬老会事業について

(答弁：市長)

当市では9月を中心に、市からの委託により各地区や自治区が主体となって敬老会事業が実施されてきた。

先輩市民の皆さんがこれまでの長い人生を通じて地域振興や社会の発展などに力を尽くされてきたことに感謝し、敬い、大切にするという気持ちはあまねく抱いているところである。この思いを根底に置いた上で、超高齢社会の中、平均寿命と健康寿命の乖離が相当あるという現状などから、今後の健康長寿推進と敬老会事業のあり方について伺う。

- (1) 平均寿命と健康寿命との差は男性で約9年、女性で12年余ある。健康寿命を平均寿命に近づけるために様々な施策が行われているところであるが、「お達者度」の向上策を含め、現状をどのように評価しているか伺う
- (2) 健康長寿増進に向けた現在の課題は何か、今後さらにどのような施策が必要と考えているか、伺う
- (3) 委託方式による敬老会開催事業について、実態は市内各地多様であるが、この方式と開催状況をどのように評価しているか伺う
- (4) 現在の敬老会事業についてあり方を抜本的に見直し、その分の資源を、健康長寿な方、「お達者市民」をより増やす施策、より多くの先輩市民が「一世紀一週間人生」を全うしていただけるよう推進する事業等に充当していくべきと考えるが、いかがか伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	11	氏名	勝川志保子	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	----	----	-------	---

### 1 生活困窮を救うことのできる窓口の運用について (答弁：市長)

長引くコロナ禍も相まって、税金の滞納、正規の健康保険証を受取れない世帯、あちこちで債務が膨れあがる方などの増加が懸念される。貸付制度への誘導や納税相談が新たな負担となることがないように、生活保護、債権処理、住宅支援、その他の困窮者支援事業などの相談を包括的に行い支援することが期待される。また、生活保護制度への誤った先入観の払拭で、生活保護を誰もがいざというときにためらわずに利用できるセーフティーネットとして機能させる事も大切である。そこで以下について伺う。

- (1) 生活保護に関しての国の通知の変更を反映し、市のホームページ、保護のしおりなどの変更なども行なわれたが、困った方がためらわずに相談できるよう啓蒙ポスターの掲示や市民や支援者への周知などができないか伺う
- (2) 生活保護申請に当たり、不要な扶養照会や調査をなくし、必要な自家用車所有の申告なども無理なく行えるよう、申告がしやすい書式などを準備するといった工夫はできないか伺う
- (3) 情報共有のできる総合生活相談窓口の設置で、困窮者支援を包括的に行なう事ができないか伺う
- (4) 税金の滞納相談の際に、生活保護を含む困窮者支援制度に適切につなぐ事で、不納欠損処理をすすめるなど、市民の生活再建まで寄り添う困窮者支援ができないか伺う

### 2 市民に役立つ情報発信について (答弁：市長)

市のホームページが新しくなったが、操作に慣れない市民がほしい情報にたどり着けなかったり、検索しても必要な情報がないなどの声も聞く。利用する市民の立場に寄り添う情報発信のあり方について伺う

- (1) ホームページ上で、目的別ガイド数を増やしたり、利用する市民目線での検索機能の強化ができないか伺う
- (2) 部門別の情報をより分かり易く発信するために、各部署で載せる内容を整理配列し、利用者である市民目線で統一的な編集を行なうことができないか伺う
- (3) 市長のツイッターだけでなく広く市民の声を拾い質問に答えていく仕組みを期待するが考えを伺う
- (4) ごみ収集や健診、納税など市民生活に係わる年間スケジュールを一冊のカレ

ンダーなどにまとめ、市役所連絡先や緊急時対応なども盛り込んで全戸に配布  
することができないか伺う

## 一 般 質 問 通 告 要 旨

議席番号	12	氏名	松 浦 昌 巳	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 <input type="checkbox"/> 一括 )
------	----	----	---------	---

### 1 市民活動の推進について (答弁：市長)

掛川市民の活動は、まちづくり協議会がスタートする以前から盛んに行なわれている。市民の生活に密着した環境や振り込め詐欺防止などにも取り組む団体や、ホテルを育て河川の環境保全を通し地域や子どもたちへの環境教育を行なっている団体など、50以上の実践団体が登録されている。コロナ禍により活動は制限されているが、コロナ終息後掛川市を元気にしていく原動力となる一因は、間違いなく市民活動である。そこで、今後の市民活動に対して市長の所見を伺う。

- (1) 市民活動のイベントがなくなり、活動を報告したり、評価する場がなくなっている現在の状況で、市民活動をどのように捉え、どう位置づけをしているのか伺う
- (2) 西山地区などでは、有志で桜や梅の植樹、竹や雑木の伐採を行ない公園化を進めている。このような市民活動に対し支援は考えられないか伺う
- (3) 委託事業では足りない道路脇の除草作業などを、ボランティアで行なっている地域に対して支援ができないか伺う

### 2 掛川市の農業政策について (答弁：市長)

掛川市の農家は、15年前の2005年の2,986世帯に対して、2020年には1,439世帯と半減している。市内のあちらこちらで荒廃農地が増加し、耕作者が減少していく中で今後どのように掛川市の農業を考えていくのか所見を伺う。

- (1) 田んぼダムの実証実験が行なわれているが、農地の持つ生産と環境保全を考えて、未来の掛川市全体を考えた農業未来会議（仮称）など立ち上げられないか伺う
- (2) 安心・安全で持続可能な農業を推進するために、掛川市有機農業推進宣言を提唱するとともに、積極的に有機栽培への支援ができないか伺う
- (3) 市職員と猟友会で組織する鳥獣被害対策実施隊の現状と評価、そして今後の方向性を伺う
- (4) オリーブ産地化計画は、掛川市単独で推進するより近隣市と連携・協働して遠州地域全体で考えるべきだと思うが所見を伺う
- (5) 今後は、農業分野にも脱炭素に向けた政策が必要だが、具体的な方針や政策を伺う
- (6) 農家にとって茶園の改植や茶樹の抜根が大きな負担となっている。JA掛川

市であぐりサポート掛川が始まったが、それに加えて行政として支援ができないか伺う



## 一般質問通告要旨

議席番号	14	氏名	藤澤 恭子	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	----	----	-------	---

### 1 対話重視の市政運営について

(答弁：市長、教育長)

市長の市政運営の3つの政治姿勢の一番目に対話重視とある。本音の対話で議論ができる機会を増やすとして、地区集会にも対話を取り入れる計画がされている。山積した行政課題を解決するため、市民が主体性を持ち参画できることは重要であり期待している。一方で、対話に慣れている市民は少なく、深い議論や本音を引き出すことは難しい。今後の市政運営やまちづくりにおいて市民の対話やファシリテーション(※1)のスキルが必要であることから、以下について伺う。

- (1) 市民に対話やファシリテーションスキルを学ぶ機会が必要と考えるが見解を伺う
- (2) 対話にはファシリテーションが重要であるが、市民ファシリテーターを養成する考えがないか伺う
- (3) 学校教育現場でも対話を重視しているが、ファシリテーションの学びも必要と考えるが見解を伺う

※1 会議やミーティングを円滑に進める技法のことで、参加者の発言を促しながら多様な意見を整理し、重要なポイントを引き出し、議論を広げ、合意形成をサポートする。

### 2 市民の健康増進について

(答弁：市長)

コロナ禍が続き、市民の社会的活動時間が減少している。特に高齢者は、身体能力の衰えが顕著に表れ、健康寿命が脅かされている。しかし、これは高齢者に限ったことではなく、コロナ禍による女性の自殺率増加も深刻な問題であり、子ども達の発達においても、今後どのような影響が出てくるかはわからない。市民の健康確保には、ますます丁寧な保健指導や適切な対応が必要とされる。市民の健康増進は、持続可能な社会保障制度に繋がり、重要な課題であることから、以下について伺う。

- (1) これまでの特定健診・特定保健指導による成果について伺う
- (2) データヘルス計画の中間評価を伺う
- (3) 本年度から始まる、高齢者の保健事業と介護予防の一体化事業の取り組みへの目標値を伺う
- (4) コロナ禍による健康的影響をどう捉えているか伺う

- (5) 小児期の生活習慣病対策について見解を伺う
- (6) 各地区にかかりつけ保健師が必要と考えるが見解を伺う
- (7) 市民の健康を守るため、有資格者の適正な配置が急務である。社会福祉士、精神保健福祉士、公認心理師などの採用が必要と考えるが見解を伺う

## 一般質問通告要旨

議席番号	18	氏名	窪野愛子	質問の方式 ( <input type="checkbox"/> 一問一答 ・ <input type="checkbox"/> 一括 )
------	----	----	------	---

### 1 自助・共助・公助の防災意識と防災力の向上について (答弁：市長)

本市は平成26年に「掛川市地震・津波対策アクションプログラム2014」を策定し、ハード・ソフト両面の対策を進めている。全国各地では毎年様々な自然災害が発生し、甚大な被害を被っている。いつ来てもおかしくない南海トラフ巨大地震や激甚化する風水害に備え、男女共同参画の視点を踏まえて市民の防災意識を更に高めていく必要がある。本年7月の市民意識調査の結果では、市民の防災意識はあまり高まっていない。また、各地区の防災への取り組みもマンネリ化や若干の温度差が生じている。そこで以下について伺う。

- (1) 地震・津波アクションプログラム2014はすでに4回の改訂が行われているが、今後、風水害対策について盛り込む考えはないか伺う
- (2) 上内田地区まちづくり協議会の防災部は、地区民の自助・共助の防災意識向上を目指している。先駆的な取り組み事例として、各地区で活用できないか伺う
- (3) 防災リーダー養成講座の修了者が地区の防災リーダーとして活躍できる地区内組織が構築され、各地区の防災力アップに貢献してきたのか、事業の成果について伺う
- (4) 本年度に改訂予定である新たな防災ガイドブックが市民の命を守る防災・減災のバイブルとなるよう、啓発や活用についてどのように取り組んでいくのか伺う

### 2 次代を担う子ども達の多様性に配慮した環境の整備について (答弁：市長、教育長)

平成27年4月に設置された掛川市総合教育会議、その目的は市長と教育委員会が十分な意思の疎通を図り、地域の教育の課題やあるべき姿を共有して、教育行政の推進を図ることである。設置から7年目となる総合教育会議の活性化を図り、子ども達の多様性や機能性に配慮した校則改革や制服改革にも着目する必要性を感じ、以下について伺う

- (1) 久保田市政において総合教育会議に期待することは何か、市長に伺う
- (2) 総合教育会議の6年間の成果と課題について教育長に伺う
- (3) 市内9中学校において校則の見直しの予定はあるのか伺う
- (4) 中学校の制服について、生徒自らが自由に選択できる「選択制制服」を採用

する考えはないか伺う